



RE-Users サミット 2021 の見どころ

公益財団法人 自然エネルギー財団は、「企業の自然エネルギー利用計画、脱炭素へ加速」をテーマに、国際シンポジウム「RE-Users サミット 2021」を2月3日（水）にオンライン形式で開催します。自然エネルギーの利用拡大に先進的に取り組むアップルなど3社の事例に加えて、自然エネルギーの電力調達に関する政策や市場の動向がまとめてわかるシンポジウムです。主な内容をご紹介します。

1. 世界と日本のトップランナー企業3社が最新のプロジェクトを発表

自然エネルギーを積極的に利用する企業の代表として、米国のアップル、欧州の 아우ディ、日本のキリンホールディングスが最新の取り組み状況を報告します。アップルは2030年までに日本を含むサプライチェーン全体でカーボンニュートラルを達成する計画について説明します。アウディは自動車メーカーとして全世界と日本で展開する自然エネルギーの利用拡大計画を日本法人のトップが語ります。キリンは日本と海外で推進中の自然エネルギー電力の調達プロジェクトについて具体的に紹介します。

2. 自然エネルギーの電力調達に関する政策・市場動向を各分野の第一人者が解説

企業が自然エネルギーの電力を調達するうえで重要な役割を果たす「非化石証書」「オンサイト PPA」「非 FIT 再エネ電力」をテーマに、政府、発電事業者、小売電気事業者の代表が最新動向を解説します。FIT から非 FIT へ、自然エネルギーの開発状況が進化していく中で、非化石証書による環境価値を組み合わせた自然エネルギーの電力を効率よく調達することが企業や自治体に求められるようになってきました。新たな自家発電の手法であるオンサイト PPA を含めて、最新の状況と今後の見通しを展望します。

3. 日本でも期待が高まる「コーポレート PPA」の実現方法と課題について議論

自然エネルギーの電力を安定的に調達する手段として、米国を中心に「コーポレート PPA」が活発になっています。企業が発電事業者と長期契約を結んで電力を調達する方法で、日本でも先進的な企業が導入に向けて検討を開始しました。どうすれば日本においてコーポレート PPA を実現できるのか、世界の動向に詳しいブルームバーグ NEF の解説をもとに、企業の代表としてイオンとソニー、自然エネルギーの電力販売を推進する小売電気事業者のみんな電力を交えて、パネルディスカッションで解決策を探ります。

* 上記の講演内容は変更になる可能性があります。